

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に事業所内に掲示し、朝礼で唱和し、全員が理解共有できるように努めている。	経営者自ら入りたい施設を目指している。理念の中で「寄り添う心」を特に大切にしており、利用者との会話では、否定的な言葉や返事をしないように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内活動(地域の祭り、清掃)に積極的に参加し、グループホームの行事に地域の方にも声をかけている。グループホームでお祭りの一環としてフリーマーケットを開催するなど、地域の方に来ていただけるよう工夫している。	月一回、踊りの先生が来て、体を動かしている。グループホームふるさとのお祭りには、利用者の家族が小・中学生のお孫さんを連れて、手伝いに来てている。地域の祭りには、歩いて行ける方は参加している。	民生委員や地域包括支援センターの協力のもと、小・中学校との交流を試みてはいかがでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報も踏まえて、ご家族の了承のもと、推進会議等で地域の方に認知症の方の理解や支援の方法を話す機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況などを報告し、助言を頂いたものについては、ユニット会議、リーダー会議で話し合い、サービス向上に努めている。	2が月に1回、民生委員、分館長、健康福祉課、地域包括支援センター、家族会の方などが参加し開催している。運営推進会議がきっかけとなり、地域の消防団と繋がりができたので、今後、消防訓練に参加してもらう予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点、相談等について、その都度里庄町に助言、指導を頂き、現場に反映させている。	健康福祉課とは電話で密に連絡を取り合っている。事故報告書など、必要があれば窓口を訪れている。毎月、地域包括支援センターから送られてくる「里庄だより」の中に研修案内が含まれており、出来る限り参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を随時開催し、勉強会を通じて正しい理解に努めている。拘束がある場合は、ユニット責任者より状況を聞いた上で、身体拘束廃止委員会で結論を出すようにしている。原則、玄関を含め、カギをかけない事を基本としている。	身体拘束マニュアルと同意書を用意している。職員がインターネット等で調べた事(感染症等)を内部研修会で発表し、報告書を作成している。地域包括から外部研修会の案内が来た時は、積極的に参加している。	言葉による拘束の防止など、社内研修内容の今後の充実を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で情報収集し、虐待について正しい知識を習得するとともに、職員にも見て見ぬふりをしないよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加等により、研修報告等を通じて理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族に契約内容、重要事項について説明し、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、電話、メール、面会時にもご家族からの要望や、ご意見を聞くようにしている。要望等があった場合は、ユニット会議、リーダー会議で報告、改善策を話し合っている。	玄関に意見箱を設置しているが、入ることは少ない。家族会の内容等で、家族にアンケートを取ったことがある。グループホーム主導で、家族会を開き、意見や要望等を聞き出している。また、利用者の要望で、気分転換を兼ねた外出をすることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議、各委員会の開催及び年2回の個人面談など、意見箱を通じてそこでの要望、提案事項はリーダー会議で検討し、運営に反映している。	年2回、施設長と主任で個人面談を行っている。給料面や勤務時間など、気軽に意見や要望を言える環境がある。資格取得時は休みの調整をしたり、取得後はお祝い金を出す等、柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や自己目標達成状況、業務水準等を年2回評価し、面談により指導するとともに、昇給、昇格などに反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、受講内容は、報告書、勉強会を通じて現場に反映するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	里庄町内のグループホーム職員の為の研修会に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人の要望等を把握し、ご本人が要望、不安などを訴えやすいように担当者を決め、職員と一緒に解決することを基本としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しては、相談等について話し合いながら共に考え、出来る限りの助言や支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングを通じて、本人様、ご家族の要望などを把握し、介護支援専門員を中心にケア担当者とともに話し合い、必要な支援、助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話の時間をできるだけ設け、日常生活の中で出来る事を見出し、一緒に行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、入居者様の生活の様子などを写真と手紙でお知らせし、面会時には生活の様子を報告し、ご家族との話し合いを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらの季節行事をレクリエーションに取り入れ、季節感を味わって頂いたり、懐かしい出来事を思い出して頂けるような声かけを心がけている。	年3回、浅口市の公園に出かけたり、年1回、笠岡にある城山公園の桜を観に行ったりしている。また、地元のスーパーやドラッグストアなどへ、一緒に買い物に出かけている。昔の友人と手紙のやり取りができるように支援をしたり、家族等の電話を仲介しながら、馴染みの関係性を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が楽しく過ごせるようにテーブルの位置や配席などに配慮し、なるべくフロアにて過ごしていただけるような声かけを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居者様には、退居後もお見舞い等に伺っており、その他についてはこちらから連絡するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にアセスメントを行い、本人様の希望等を聞いている。言葉でのコミュニケーションが困難な場合には、日頃の観察や担当者との話し合いで検討し、介護計画に反映させている。	利用者の言った希望は、申し送りノートに書いて皆で共有している。コミュニケーションが困難な利用者には、ゆっくり時間をかけて寄り添い、思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはカンファレンスなどを行い、ユニット全体で情報の共有化に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議、アセスメント、評価に基づき、情報の共有化により、介護計画において課題を明確にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、ケアカンファレンス等においてご家族の希望、本人様の希望を把握し、検討の上、介護計画を作成している。	定期的に、アセスメントとモニタリングを行っている。利用者に変化があればその都度、カンファレンスを行っている。医師の意見は、受診の際に看護師が聞いている。また、家族の意見は、ケアマネジャーが面会時もしくは電話で聞いている。それらを総合して、スタッフ間で話し合い、ケアマネジャーが個別に利用者 に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画にその日の様子を記入し、申し送りノートの活用、朝礼での発表等により、職員間で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、介護計画の見直しを行い、その時にあった介護計画を作成するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、関係各方面からの協力を頂きながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携を密にし、必要に応じて往診に来て頂いている。主に看護師が受診対応し、対応できない場合はご家族の協力を仰いでいる。	利用前のかかりつけ医を継続しており、希望があれば協力医を紹介している。受診の際は看護師が同行するようにしている。歯科往診もその都度、対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が職員の気づきや情報を受診時に医師に相談している。医療機関との調整、処方薬の管理などは看護師が把握し、職員に伝え、情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡調整は密に行い、状態の把握に努め、早期退院の話し合いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針に基づき説明し、同意を頂いている。終末期と診断された場合は、ご家族と今後のケアについて話し合いを行い、ユニット全体で取り組んでいる。	看取りの経験は今までに1度ある。看取りの条件として、家族が対応し、ホーム内では医療行為は行わないとしている。同意書の上、看取りを行う場合は、職員一丸となって家族をサポートする方針である。	ご家族が看取りの希望を伝えやすい環境作りと、職員が安心して看取りに取り組めるように、さらなる社内での勉強会の実施と、スキルアップに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにおいて症状のチェック、医師への連絡指示を定めている。全職員に消防署における救急救命講習を受講させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導を仰ぎながら避難訓練を実施している。地域へは推進会議を通じて協力を依頼している。スプリンクラー、自動火災通報装置も設置済み。	年2回、利用者も参加して、火災を想定した訓練を行っている。近隣住民には、利用者の見守りをお願いをしている。備蓄食料も徐々に準備している。地元の消防団の方と一緒に訓練ができるよう、検討しているところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊敬」を基本とし、その方に合わせた声掛けを行っている。個別対応を心がけ、援助している。	「～さん」を基本としており、利用者の希望で「～ちゃん」となることもある。「おじいちゃん、おばあちゃん」とだけは呼ばないよう職員に指導している。入浴の際、浴室の扉に男湯・女湯の札をかけ、入浴中は中から鍵をかけるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を最大限尊重し、1人ひとりの生活リズムを大切にしながら本人の思いに添ったケアを支援できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、自己のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて、月1回専門職に来てもらい、散髪を行っている。朝の洗面や入浴後の整容等、本人の意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る事を見出し、好みの献立を取り入れる等しながら、食事の楽しみが増えるようにしている。	週1回は食べたい物を利用者に聞いているが、メニューはその都度、冷蔵庫と相談している。もやしのひげ取りや、たまねぎの薄皮向きなど、できることは利用者にしてもらっている。おやつ作りは利用者と一緒に作ることもある。天候の良い日は、建物の外で食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を提供し、必要に応じて水分チェック表を作成し、1人ひとりの栄養や水分が確保できるように支援している。食事の摂取量の記録、体重測定も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、介助しながら口腔内を観察している。義歯は毎日洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを考えながら、本人の意思を取り入れた声掛けをし、トイレ誘導を行っている。その方にあった排泄の状態をユニット会議で話し合い、本人様にとって良い排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表でパターンを把握し、なるべく紙パンツより、布パンツが使用できるよう心掛けている。おしめを使用している方も、排便の時はなるべくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の記入とともに便秘につながらないように個々に合わせた排泄パターンの把握により毎日、同じ時間帯に排泄の声かけを行っている。野菜中心の献立など、工夫を行うとともにその方にあった水分補給をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をして頂けるようにしているが、勤務体制の都合で、本人様の希望通りの入浴が出来ないこともある。	週2回の入浴を基本とし、毎日の希望にもできる限り対応している。夜間浴の希望は、職員体制上対応が困難であるが、心を許せる職員に入浴支援を頼んでいる。入浴拒否する利用者に対しては、職員や時間帯を変えながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ホールで過ごされたり、簡単な運動をしたり、天気の良い日は外で日光浴をしたり、生活リズムを整え、夜間安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに綴じ込み、薬に関する情報を共有し、主治医の指示のもと服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの出来る事を把握し、好きな事や希望を取り入れたレクリエーションをしている。原則、禁酒・禁煙としている。コーヒー等は希望者には提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事に外出を増やすよう心掛けている。天気のいい日には、散歩や買い物に出かけるようにしている。ご家族に協力していただきながら、自宅への外出等も支援している。	利用者が出かけたければ、なるべく出かけるように努めている。外出希望を言わない利用者に対しても、行事外出などで出かける機会を提供している。外泊は年々厳しくなっているが、お正月など、「自宅へ帰りませんか？」と利用者や家族に声をかけ、一時帰宅する方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様は金銭管理が困難なため、買い物に行った際の支払いは立て替えを基本としている。本人の希望によっては少額のお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、手紙や電話を使用される時はプライバシーに配慮しながら職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには季節感を取り入れた花を飾ったり、小物を置いたりしている。温度調節も配慮している。加湿や消毒等で感染症予防を行っている。	1日2回のトイレ掃除、1日1回の掃除機とモップ、雑巾がけをすることで、清潔感のある空間を保っている。利用者の作品(ぬり絵やはり絵等)を壁に飾り、季節感や生活感を表現している。薬品を入れた加湿器で、感染の予防も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になって休みたいときは居室でくつろがれ、フロアは居間兼食堂となっており、自由に過ごせるように音楽やテレビを流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンスは備え付けとなっているが、本人が使いやすいように配慮し、カレンダー、写真などを飾り、希望により自宅より馴染みのものを持って来て頂くなどして居心地のいい居室づくりを心がけている。	火気類など、危険なもの以外は持参物に制限はなく、持ち込むことができる。布団も本人の希望するもの、使い慣れたものを使用している。状態に合わせて、カーペットを敷いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりをつけ、扉には手作りの表札を付けたりして分かりやすいようにしている。洗面も適切な高さになっており、自立した生活の工夫をしている。内部はバリアフリーで車椅子も自走できるようになっている。		